第 2 章

本地域の環境資源
－その特性と課題－

第２章　本地域の環境資源－その特性と課題

１．地域環境資源の範囲－私たちがとらえたいもの

本地域の環境資源としては、山、森林、河川、動植物などの自然環境だけでなく、自然を活用してきた農地や里山の風景、伝統的な建物や歴史的遺産、さらには自然を活かした農作物・林産物・特産品、地域の伝統的な行事や芸能、伝統的な食文化や生活の中での自然の利用など、風土や生活文化まで幅広く対象とする。

また、現在あるものや残っているものだけでなく、失われつつあるもの、忘れられつつあるものについても注目して抽出することとする。

具体的には、以下の視点から地域環境資源の抽出を行うこととする。

持続可能な地域づくりの対象とし得る『地域環境資源』

世界自然遺産白神山地に加え、男鹿、森吉山、八森岩館、田代岳といった自然公園が多数指定されていることからも明らかなように、すぐれた自然環境がこの地域を特徴づける資源であるとともに、秋田スギに代表される木材を含めた農林水産資源も地域を特徴づけるものであると考えられる。

また、一方で、自然とともに生きてきた人の営みにより形成された生活文化やその歴史、それを今に伝える文化財等も忘れてはならないものであり、阿仁のマタギ文化や自然との共生の生活文化、鉱山関連の産業遺産やその盛衰の歴史などが注目される。特に、地域活性化モデルを想定し、食や行事にも着目することとした。

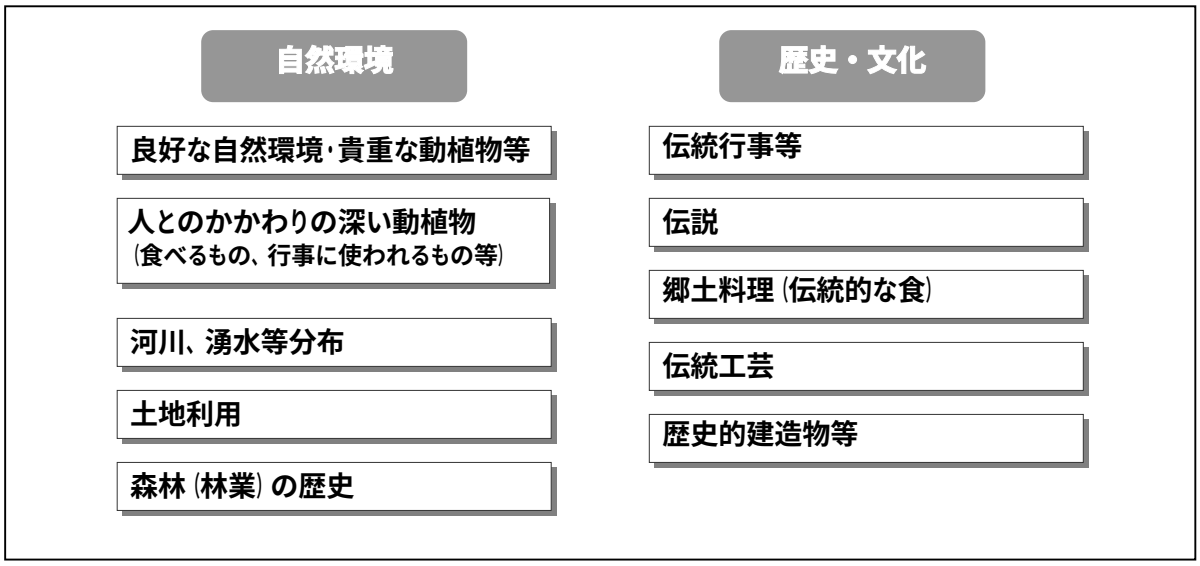

図 2.1.1　対象とする地域環境資源

なお、地域環境資源を支える人口、産業等の社会的特性についても整理・把握し、地域コミュニティの状況、農林業の後継者の状況等地域社会が抱える課題を明らかにする。

併せて、今後の地域資源となる可能性のあるものとして、エネルギー関係の状況、地域の振興に関する施策や活動、各種の活動団体等の状況について把握する。

図 2.1.2　整理する社会的特性等

２．豊かな森と水の自然資源－変わらないもの、失われつつあるもの

（１）多様で奥深い自然

既存資料から把握された自然資源には、火山地形、山岳地形等、河川地形、湖沼地形、海岸地形などの地学的要素、これらを覆う植生や植物、また年々その生息域が減少しつつある動物など、多種多様な資源が分布する。

＜火山地形＞

太良駒ヶ岳（火山群）、田代岳（火山群）、十和田火山地、森吉山（火山群）など 1000mを超える火山が地域の北から東をとりまき、主要な山岳地帯を形成しているほか、男鹿半島には一ノ目潟、二ノ目潟、三ノ目潟、戸賀湾、寒風山など火山の爆発によって形成された火口地形がみられる。男鹿半島は全国でも珍しい火口地形の集合地域となっている。

珍しい火山地：日本の火山地形は、同じ火口から何度も噴火を繰りかえして、大きな火山体を成長させる複成火山が多いが、男鹿の一ノ目潟、二ノ目潟、三ノ目潟などは一旦噴火して小型の火山を生じた後、二度と同じ火口から噴火しない単成火山で、東北地方では唯一の単成火山の集合地となっている。

＜山岳、河川地形等＞

白神山、真瀬岳、二ツ森など世界遺産白神山地の骨格をなす山岳とそれを穿つ赤石渓谷、目屋渓、真瀬渓谷、東にあって奥羽山脈の一角をなす東ノ森、西ノ森、戸倉森、黒森山、五ノ宮嶽などの山岳や瀑布・断崖・風穴の他、信仰の対象となっている山、地域の人々に親しまれ伝説の残る山や滝、渓谷なども多い。

白神山の伝説（深浦町）：岩木山との姉妹伝説。妹の方が女ぶりが良かったので岩木山、姉が白神山になった。岩崎ではもともとこちらが姉ということで岩木山を下の神様と呼んでいる。

赤石川の由来（鰺ヶ沢町）：赤石川上流の赤沢に鬼があまた住み、村人を苦しめていた。津軽藩遠祖光信はこれを討つため家来に大焚火をさせたり山伏を集めてホラ貝を吹かせるなどして鬼をおびき出し、とうとう滅ぼした。このとき戦ったところを雨血場といい、鬼が流した血で川の水も石も赤く染まったので、赤石川という名になったという。

田苗代湿原（藤里町）：この湿原は１万年前は湖沼で、「神の田」であったという伝説がある。人々は昔から岳参りをして、神様の田で豊凶を占ってきた神聖な場所である。

房住山（三種町）：この山は、修験者の僧房が多かったので、「坊住山」とも呼ばれていたと言う。大施主は高倉の長者であった。坂上田村麻呂に征伐された蝦夷の首領、長面三兄弟の話から始まって、周辺地名の由来や、高僧の和歌、房住山開基の禅定滝などの伝説がある。

＜湖沼地形、海岸地形＞

十和田カルデラ湖、白神山麓の十二湖などの自然湖のほか、小友沼（能代市）、素波里湖（藤

里町）のような人工湖も地域の探勝スポットとなっている。海岸地形は白砂青松の能代海岸、男鹿半島にみられる海食崖、海食洞があり、岬の多くは夕陽観賞の場として利用されている。

サンセットスポット：海岸線を中心に、岡崎海岸、森山海岸（深浦町）、釜谷浜（三種町）、入道崎、ゴジラ岩（男鹿市）などの夕陽観賞の場が数多くある。

＜貴重な植物＞

山岳域を中心にブナ林が多くみられ、白神山地や森吉山のほかにもブナの自然林は残っているものの、周辺地域の大部分は林業経営が盛んで、スギの植林が多くみられる。山岳地においては、崖地や風衝地に稀少な植物が生育している。

スギの天然林は多くはないものの、男鹿半島、房住山（三種町）、竜ケ森（北秋田市）、七座山、仁附・水沢（能代市）、矢立峠、長木沢、大割沢（大館市）、大林（上小阿仁村）などに残っている。

このほか海岸沿いには、風の松原（江戸時代からのクロマツ砂防林）、カシワ林やヤブツバキ群落、北限のツバキや塩沼地性の稀少な植物の生育もみられる。

19 世紀初頭の秋田側の白神山地：秋田側白神山地のスギの天然林は 19 世紀初頭に枯渇、雑木林の拡大が顕著であったといえる。植林によるスギ林の育成が広く行われ６割弱のスギとマツや雑木（ブナ等）との混交林が形成されていたようである。（第３回環境史・環境教育分科会　参考資料　より）

＜主要な動物＞

ニホンカモシカ、ツキノワグマはほぼ全域に分布、白神山地や森吉山など山岳域にはクマゲラ、イヌワシやクマタカなどの猛禽類が生息する豊かな自然が残されている。

また、男鹿半島や八森海岸域、八郎潟などは海鳥や渡り鳥の重要な生息・繁殖地となっている。

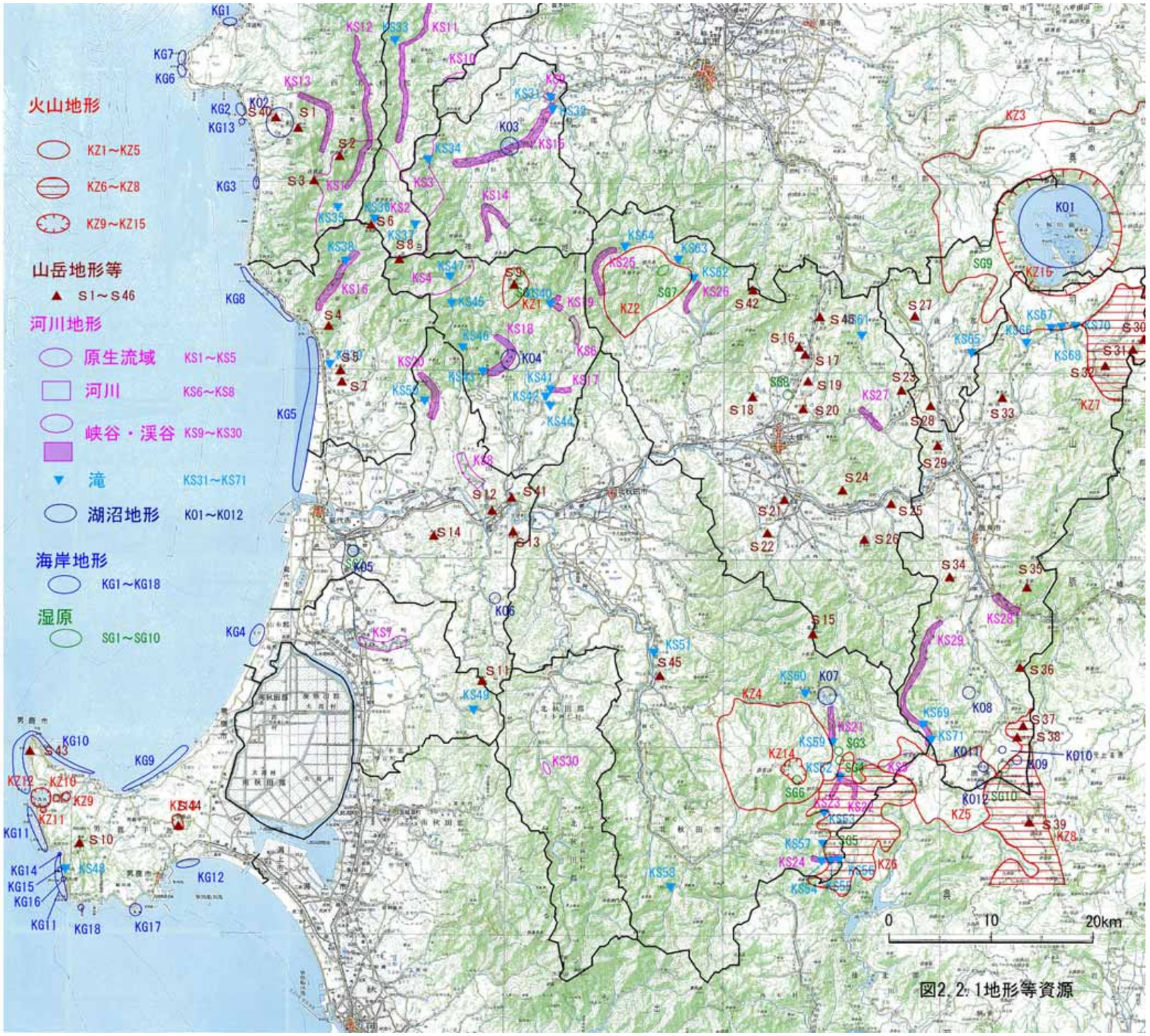
火山地形
KZ1～KZ5
KZ6～KZ8
KZ9～KZ15
山岳地形等
S1～S46
河川地形
原生流域 KS1～KS5
河川 KS6～KS8
峡谷・渓谷 KS9～KS30
滝 KS31～KS71
湖沼地形 K01～K012
海岸地形
KG1～KG18
湿原
SG1～SG10
0
10
20km

図2.2.1地形等資源

表 2.2.1　地域の主な自然資源

位置記号	区分	名称もしくは位置
KZ1	火山地形	太良駒ヶ岳（火山群）
KZ2		田代岳（火山群）
KZ3		十和田火山地（火山群）
KZ4		森吉山（火山群）
KZ5		焼山（火山群）
KZ6		掬森高原（火山性高原）
KZ7		田代平・熊取平（火山性高原）
KZ8		安比高原（火山性高原）
KZ9		一ノ目潟（マール）
KZ10		二ノ目潟（マール）
KZ11		三ノ目潟（マール）
KZ12		戸賀湾（火口）
KZ13		寒風山（姫岳）（火口）
KZ14		ヒバクラ岳（カルデラ）
KZ15		十和田（カルデラ）
S1	山岳地形等	崩山
S2		向白神岳
S3		白神岳
S4		糠森
S5		薬師山
S6		真瀬岳
S7		母谷山
S8		二ツ森
S9		駒ヶ岳
S10		真山・本山・毛無山
S11		房住山
S12		高丘山
S13		七座山
S14		茂谷山
S15		竜ヶ森
S16		男神山
S17		女神山
S18		大山
S19		城ヶ森
S20		獅子ヶ森
S21		達子森
S22		長者森
S23		高森
S24		鞍掛山
S25		三哲山
S26		高森
S27		大森山
S28		亀田山

位置記号	区分	名称もしくは位置
S29	山岳地形等	茂谷山
S30		東ノ森
S31		西ノ森
S32		戸倉森
S33		黒森山
S34		三ノ岳
S35		五ノ宮嶽
S36		高毛戸
S37		前森
S38		後森
S39		畚岳
S40	（断崖・岩壁等）	日本キャニオン
S41		きみまち阪
S42		石の塔
S43	（岩脈）	赤島
S44	（風穴）	寒風山風穴
S45		小又風穴
S46		長走風穴
KS1	河川地形等	追良瀬川原流（原生流域）
KS2		赤石川原流（原生流域）
KS3		暗門川原流（原生流域）
KS4		粕毛川上流部（原生流域）
KS5		粒様川上流部（原生流域）
KS6		藤琴川（自由蛇行河川）
KS7		三種川（自由蛇行河川）
KS8		種梅川（自由蛇行河川）
KS9	（峡谷・渓谷）	郷坂沢峡谷
KS10		中村川峡谷
KS11		赤石峡谷
KS12		追良瀬峡谷
KS13		笹内峡谷
KS14		西股沢、朝日股沢峡谷
KS15		目屋渓
KS16		真瀬渓谷
KS17		峨朧峡
KS18		藤里峡
KS19		太良渓谷
KS20		常磐渓流
KS21		小又峡
KS22		赤水渓谷
KS23		桃洞渓谷
KS24		立又渓谷
KS25		大川目渓流

位置記号	区分	名称もしくは位置
KS26	（峡谷・渓谷）	岩瀬川渓流
KS27		長木川渓谷
KS28		湯瀬渓谷
KS29		夜明島渓谷
KS30		大錠渓谷
KS31	（滝）	郷坂の滝
KS32		乳穂ヶ滝
KS33		くろくまの滝
KS34		暗門滝
KS35		白滝
KS36		アイコガの滝
KS37		ヨドメの滝
KS38		黒滝
KS39		白滝
KS40		一通の滝
KS41		峨瓏大滝
KS42		白糸二段の滝
KS43		素波里不動滝
KS44		湯の沢銚子の滝
KS45		岩谷ノ滝
KS46		四十八滝
KS47		大滝
KS48		白糸滝
KS49		扇滝
KS50		大柄滝
KS51		四十八滝
KS52		桃洞ノ滝
KS53		安の滝
KS54		一ノ滝
KS55		二ノ滝
KS56		幸兵衛滝
KS57		水尻滝
KS58		不動の滝
KS59		三階の滝
KS60		白糸滝
KS61		中滝
KS62		糸滝
KS63		五色の滝
KS64		泊り滝
KS65		七滝
KS66		雄滝
KS67		止滝
KS68		中滝

位置記号	区分	名称もしくは位置
KS69	（滝）	泊滝
KS70		銚子の滝
KS71		茶釜の滝
KO1	湖沼地形等	十和田湖
KO2		十二湖
KO3		美山湖
KO4		素波里湖
KO5		小友沼
KO6		田代潟
KO7		大平湖
KO8		作沢沼
KO9		長沼
KO10		蛇沢沼
KO11		大沼
KO12		大湯沼
KG1	海岸地形等	岡崎海岸
KG2		森山海岸
KG3		大間越海岸
KG4		釜谷浜
KG5		能代海岸
KG6	（海食崖）	舮作崎
KG7		黄金崎
KG8		八森岩館海岸
KG9		間口浜
KG10		男鹿半島西岸（入道崎周辺）
KG11		男鹿半島西岸（戸賀～門前）
KG12		生鼻崎
KG13	（海食洞）	ガンガラ穴
KG14		カンカネ洞
KG15		大桟橋
KG16		孔雀ケ窟
KG17	（波食台）	鵜ノ崎
KG18		潮瀬崎
SG1	湿原	田苗代湿原
SG2		小友沼
SG3		下谷地湿原
SG4		上谷地湿原
SG5		佐渡湿原
SG6		小池ヶ原湿原
SG7		田代岳湿原
SG8		芝谷地湿原
SG9		白地地帯
SG10		大谷地

資料）自然環境保全基礎調査（環境省）
日本観光協会ＨＰ、秋田県ＨＰ、各市町村ＨＰ

図2.2.2貴重な植物

番号	名称
1	白神岳高山植物群落
2	白神岳のネズコ-ヒバ
3	舮作のヤブツバキ林
4	タブノキ自生北限地
5	松神のヤマアイとカラスザンショウ
6	木蓮寺のモクゲンジ
7	ツガルミセバヤの群生
8	白神岳の露頭植物群落
9	白神岳の風衝草原
10	笹内川のオニシオガマの群生
11	吉ヶ峰のツガルフジの群生
12	十二湖の樹上着生シダ群
13	十二湖のブナ
14	然ヶ岳のヤチダモ林
15	赤石川のブナ林
16	白神山地のフキユキノシタの群生
17	アオモリマンテマ
18	尾太岳のコメツガ林
19	青鹿岳のハイマツ群落
20	シラガミクワガタ
21	横間のカラスザンショウ林
22	萩台山のフジ群落
23	チコギ崎の海岸植生
24	三ノ又沢のブナ林
25	小岳のハイマツ群落
26	粕毛川源流のブナ林
27	一通天然林
28	大沢大ケヤキ
29	太良親子杉
30	田中大イチョウ
31	岳岱自然観察教育林
32	寒風山風穴植物群落
33	寒風山禾本草原
34	男鹿半島のスギ自然林
35	男鹿半島のヤブツバキ群落
36	男鹿半島の海岸植物群落
37	男鹿半島のカシワ林
38	男鹿半島のケヤキ群落
39	滝ノ頭シャジクモ群落
40	脇本の湿原
41	青砂川のアカマツ林
42	能登山の北限の椿
43	榧
44	房住山のブナ-スギ群落
45	ジュンサイ
46	七座山の自然林
47	仁鮒・水沢の秋田スギ天然林

番号	名称
48	母体のモミ林
49	落合沼の低層湿原
50	浅内沼の低層湿原
51	風の松原
52	神代藤
53	銀杏山神社の大イチョウ
54	森吉小又峡の森林植生
55	竜ヶ森のブナ・スギ林
56	森吉山の森林植生
57	桃洞・佐渡のスギ林
58	姫ヶ岳のブナ・スギ天然林
59	羽根山のスギ植林
60	露熊山峡の岩崖植生
61	鞍山の風穴植物群落
62	柴倉山のブナ林
63	小又川のケヤキ林
64	森吉山の雪田植生
65	小又の風穴植生
66	大場谷地・前谷地の湿原植生
67	大仏岳のブナ林
68	矢立峠の秋田スギ林
69	長走の風穴植生
70	長木沢のスギ林
71	田代岳の湿原植物群落
72	長慶林のブナ林
73	大割沢のスギ林
74	芝谷地湿原植物群落
75	出川のケヤキ
76	十和田湖畔の落葉広葉樹林
77	白地山湿原の植物群落
78	鉛山のダケカンバ林
79	十和田湖のブナ林
80	北野のシラカバ林
81	小坂川のホッスガヤ群落
82	非瀬沢の風穴植生
83	三ツ又森のオオシラビソ-ブナ林
84	十和利山のブナ林
85	五ノ宮嶽のブナ林
86	湯瀬の渓谷林
87	大円寺門杉
88	八幡平の植生
89	五反沢川の渓谷林
90	大林のスギ林
91	萩形のフサザクラ群落
92	大旭又沢のブナ林
93	萩形沢の渓谷林

資料）自然環境保全基礎調査（環境省）
秋田県の絶滅のおそれのある野生生物２００２（秋田県）
秋田県生物多様性マップ（秋田県）
秋田県植物分布図　２０００（秋田県環境と文化のむら協会）
日本観光協会ＨＰ、秋田県ＨＰ、各市町村ＨＰ

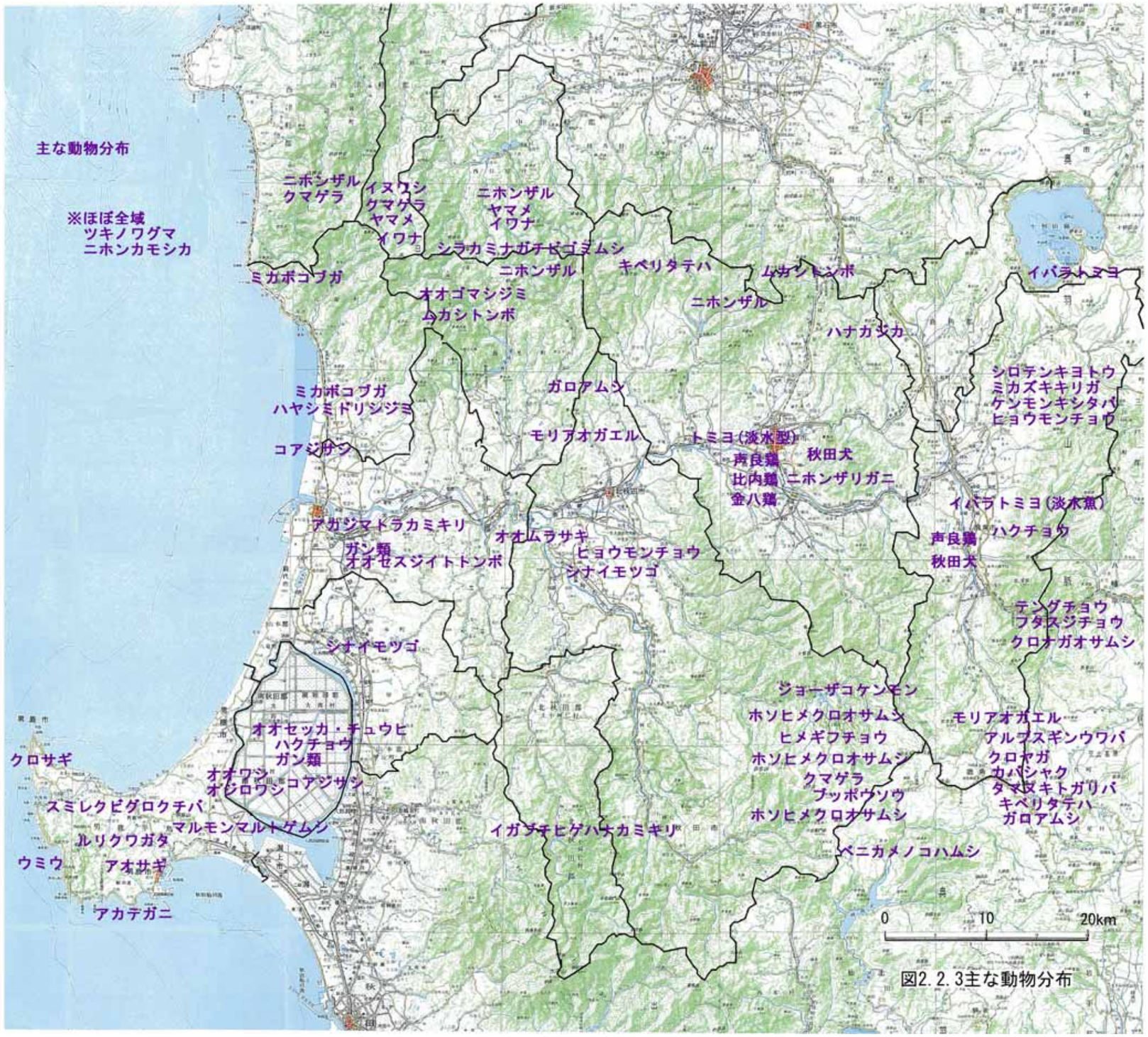

図2.2.3主な動物分布

資料）自然環境保全基礎調査（環境省）
秋田県の絶滅のおそれのある野生生物２００２（秋田県）
秋田県生物多様性マップ（秋田県）
日本観光協会ＨＰ、秋田県ＨＰ、各市町村ＨＰ

＜人とかかわりの深い動植物＞

豊かな自然に育まれた本地域においては、多種多様な資源が古くから活用され、自然の恵みを享受してきている。

食用としての山菜、鶏、魚介類など、行事に使われたあるいは今も使われている植物や動物、住居や衣料用に活用されてきた樹木などがある。ブナやスギやヒノキは、曲げわっぱ、杉細工などの伝統工芸品の素材となっており、ハタハタや比内鶏などは地域の代表的な特産品となっている。

表 2.2.2　人とかかわりの深い動植物

	植物名	活用方法
山菜類	フキノトウ（バッケ、バッキャ）	食用
	フキ（ミズブキ、アキタフキ）	食用、行事
	ギシギシ（ウマスカンポ）	食用
	イタドリ（越冬芽）	食用
	ヤマワサビ	食用
	ヤマミツバ（越冬芽）	食用
	ミツバ	食用
	サワアザミ、ノアザミ	食用
	ウゴアザミ、マアザミ、ナンブアザミ	食用
	サワアザミ	食用
	モリアザミ	食用
	クサソテツ（コゴミ）	食用
	ヨブサマソウ（ホンナ）	食用
	モミジガサ（シドケ）	食用
	ミヤマイラクサ（アイコ）	食用
	タラノキの芽	食用
	ギョウジャニンニク	食用
	ウド	食用
	ゼンマイ	食用、行事
	ワラビ	食用、行事
	オオバギボウシ（ウリ、ウルイ）	食用
	シオデ（ショデコ）	食用
	ゲンノショウコ	食用
	ジュンサイ	食用
	チシマザサ（ネマガリダケ）	食用

	植物名	活用方法
山菜類	ウワバミソウ（ミズ）	食用
	マイタケ	食用、行事
	トンビマイタケ	食用
	ハツタケ	食用
	スギヒラタケ（スギモダシ）	食用
	ハツタケ	食用
	オウギタケ	食用
	アミタケ	食用
	チチアワタケ・ヌメリイグチ・アワタケ（アワッコ・アワフク）	食用
	マツタケ	食用
	キクラゲ	食用
	ナラタケ（サワモダシ）	食用
	ヤチヒロヒダタケ	食用
	マスタケ	食用
	シイタケ	食用
	ホンシメジ	食用
	クリタケ	食用
	ブナハリタケ	食用
	キシメジ（キンタケ）	食用
	シモコシシメジ（キンタケ）	食用
	ナメコ	食用
	ムキタケ	食用
	ヒラタケ	食用
	エゾハリタケ	食用
	エノキタケ	食用

	植物名	活用方法
海草類	エゴ草（海草）	食用、行事
果実類	ウメ	食用
	クルミ	食用
	クリ	食用
	アケビ	食用
	アンズ	食用
作物類	エゴマ	食用、行事
	ホウキ草の実（トンブリ）	食用
	ニラ	食用、行事
	ノビルの根（ヒロッコ）	食用
	ダイズ	食用、行事
	アズキ	食用、行事
	ジャガイモ	食用
	カボチャ	食用、行事
	ジネンジョ	食用、行事
	ダイコン	食用、行事
	ミョウガ	食用
	シシトウ	食用
	ソバ	食用、行事
	アワ	食用、行事

	植物名	活用方法
作物類	イネ（コメ）	食用、行事
	イネ（ウルチ米）	食用、行事
	イネ（モチ米）	食用、行事
樹木等	ブナ	住・衣ほか
	スギ	住・衣ほか
	ヒノキ	住・衣ほか
	ヒバ	住・衣ほか
	サワラ	住・衣ほか
	マサキ	住・衣ほか
	クロモジ	住・衣ほか
	カヤ	住・衣ほか
	ササ	住・衣ほか
	ウルシ	住・衣ほか
	ムラサキ	住・衣ほか
	アカネ	住・衣ほか
	アケビ	住・衣ほか
	フキ（蕗）	住・衣ほか
	クルミ	住・衣ほか
	ウリハダカエデ	住・衣ほか
	ワラ	住・衣ほか

動物名	活用方法
クマ	食用、行事、住・衣ほか
ウマ	食用、行事、住・衣ほか
トリ（比内鶏）	食用
クジラ	食用
アンコウ	食用
エイ	食用、行事
サケ	食用
ホッケ	食用
タコ	食用
マダイ	食用
ハタハタ	食用、行事
イワシ	食用
ニシン	食用
ワカサギ	食用
アミ	食用

動物名	活用方法
コイ	食用、行事
カワヤツメ（八目鰻）	食用
ウグイ（ジャコ、ザッコ）	食用
シラウオ	食用
シロウオ	食用
ツブ	食用
イワナ	食用、行事
ヤマメ　サクラマス	食用
ドジョウ	食用、行事
サワガニ	食用
アユ	食用
カジカ	食用
フナ	食用
ナマズ	食用
コバネイナゴ	食用

資料）秋田県史（秋田県）
秋田県、各市町村ＨＰ
秋田の自然をたずねて（秋田自然史研究会）
あきた山菜キノコの四季（秋田魁新報社）

＜河川、湧水等の分布＞

水は地形や植生とともに自然の基盤を構成している。本地域の大部分は秋田県内三大河川のひとつである米代川の流域に含まれている。（図 2.2.4）

米代川は鹿角市東方の中岳（1024m）に源を発し、一旦岩手県側に入った後秋田県側に西流し、多くの支流の流れを集めて、能代市で日本海に注いでいる。

基幹産業である農業への灌漑利用の他、人々の交通路として、また鉱物資源や林産資源の運搬（舟運）路として役立てられた。

米代川の舟運：米代川流域には、尾去沢鉱山（鹿角市尾去沢）、小坂鉱山（鹿角郡小坂町）、大葛金山（大館市比内）、阿仁鉱山（北秋田市阿仁）、太良鉱山（藤里町）など、多くの有名な鉱山があった。
尾去沢は 708 年に、大葛も 8 世紀前半に操業が始まったといわれる。中尊寺金色堂に使われた大量の金は、大葛金山のものだったと言い伝えられている。
江戸時代は藩の政策もあって、阿仁・尾去沢の開発がすすみ、愛媛の別子銅山とともに日本三大銅山に数えられた。小坂鉱山は明治以降に本格化し、日本最大の銅山となった。昭和の戦後以降、これらの鉱山は資源枯渇・鉱業不況のため閉山に追い込まれ、平成 7 年以降、操業鉱山はなくなった。
また、伐採材木の筏による運送は、江戸時代以前からの記録があり昭和 39 年（1964 年）まで続いていた。
（資料：米代川読本/無明舎出版）

湧水は山麓や扇状地の端部などで多くみられ、かつては飲用他の生活用水として利用されていたが、水道の普及に伴いその役割が減少した。

現在は、水道源の一部（男鹿市の滝の頭、藤里町前山御膳水）や灌漑利用、酒造り（八峰町薬師山中腹のわき水他）、パン製造（八峰町お殿水）に利用されているほか、観光スポットとしての水汲み場や住民憩いの場として整備されているところもある。（図 2.2.5）

横倉のわき水（藤里町）：「白神山地の水」を手軽にくめる。横倉集落の生活を支えてきた。生活用水、小規模な棚田のかんがい用水としても利用された。わき水の水路は集落内を流れ、そこから各家々が水をひいた。各家に水をためる池があり、そこで皆コイを飼った。冷たい水を緩め、その後に水田に流された。このほか、セリ栽培やサケのふ化事業など、さまざまな用途に利用されている。
（あきた　わき水巡り　/さきがけ　on The Web より）

図2. 2. 4河川分布

資料）秋田県河川海岸図（平成 18 年 7 月）
青森県河川海岸図（平成 18 年 4 月）

図2.2.5　主な湧水

資料）湧水とくらし（無明舎出版）
秋田県の代表的な湧水ＨＰ（環境省）
青森県の代表的な湧水ＨＰ（環境省）
きたわき水巡り、さきがけ on The Web

＜土地利用＞

本地域の土地利用は、大部分を森林が占めている。また、米代川沿岸及び日本海岸の平坦地に田畑の農用地が広がっているほか、各市町村の中心市街地が点在している。

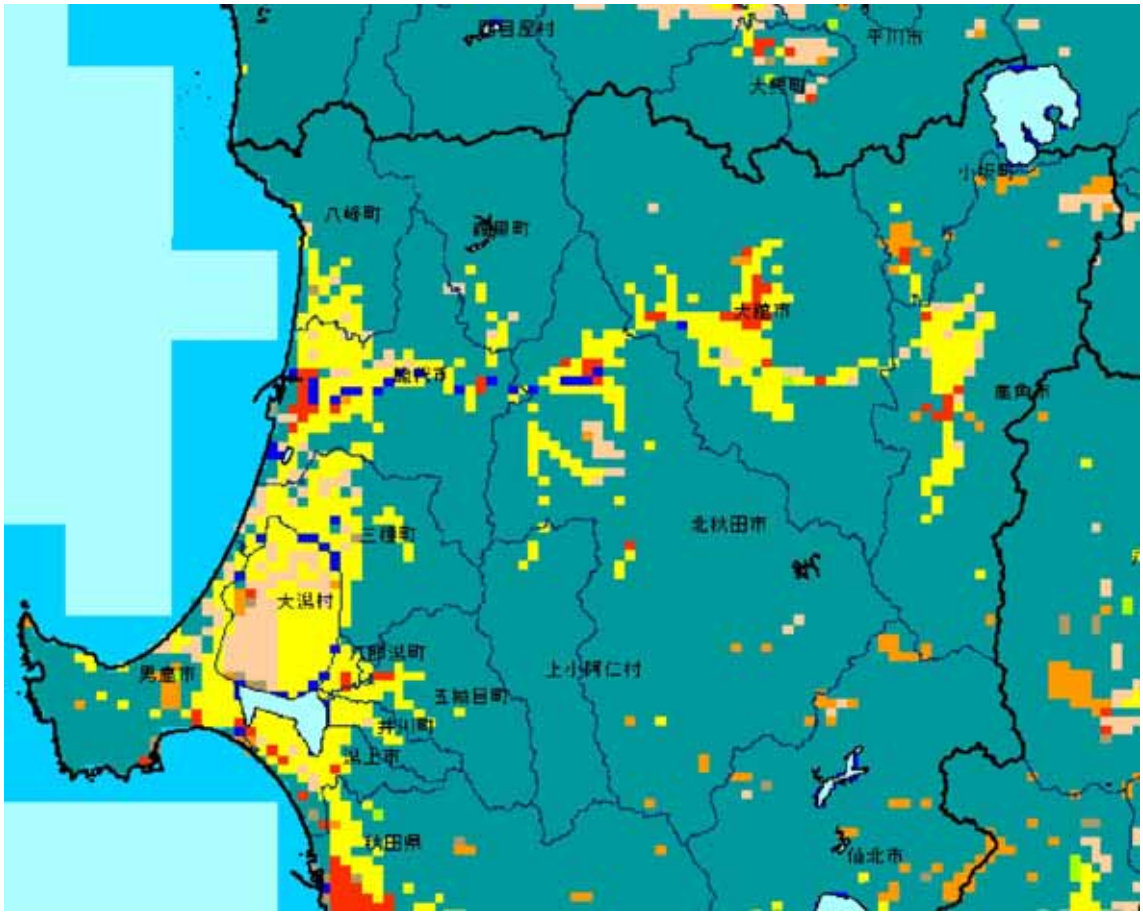

図 2.2.6　土地利用図

資料）国土数値情報 1km メッシュ
土地利用（平成 9 年）

各市町村の地目別固定資産評価面積をみると、鹿角市・小坂町・北秋田市・藤里町などの山間部で山林や原野の比率が高くなっている。一方、三種町・男鹿市・大潟村などの日本海岸では農地の比率が高くなっている。

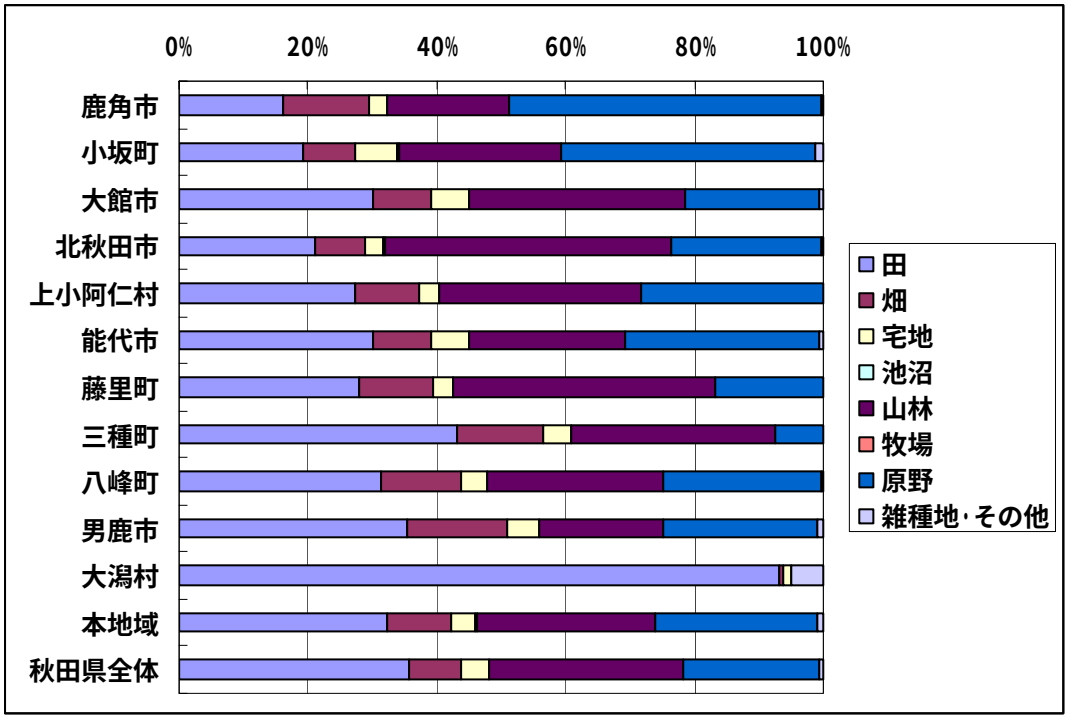

図 2.2.7　市町村別土地利用の構成

資料）秋田県統計年鑑

（２）アンケートから見た地域の自然資源

地域住民へのアンケート調査（概要は個別調査編を参照）によると、昔から大切にしてきた自然として今も残っているものは、「白神山地」や「八幡平」、「森吉山」、「米代川」、「日本海岸」などそれぞれの地域を代表する自然が多くあげられている。

一方、今はなくなってしまったりなくなりつつある自然としては、身近な自然である「田圃の風景」や「近くの雑木林」、工事等の改変による「河原」や「湧き水」、そこに依存する「魚」や「虫」、管理されない「山林」などがあげられている。

今も残っている自然と地域住民とのかかわり方をみると、「日常的によく行ったり、手入れしたりしている」が 16.2%、「たまには行ったり、手入れしたりしている」は 32.2%となっており、両方合わせて半数近くが何らかの形で自然とかかわっているものの、「ほとんど行ったり、手入れすることはない」「ほとんど存在も忘れた」と自然とかかわらない地域住民も２割強いる。

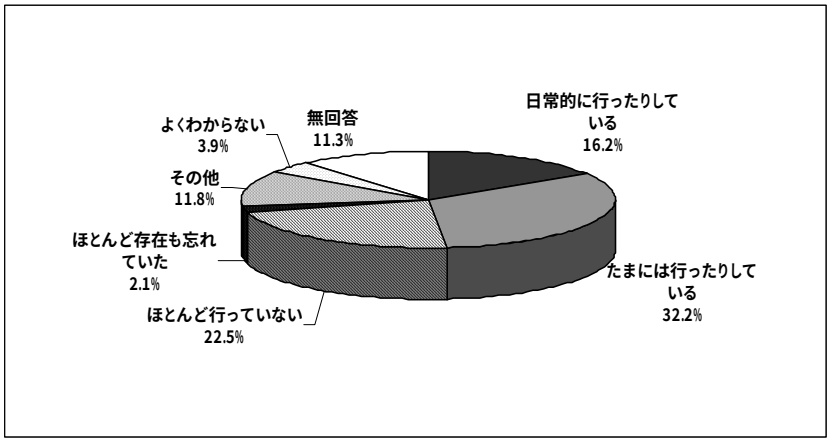

図 2.2.10　「今も残っている自然」とのかかわり方

また、今も残っている自然がこれからも残っていくと思うか、については半数近くが「このままでもずっと残っていくと思う」と答えている。

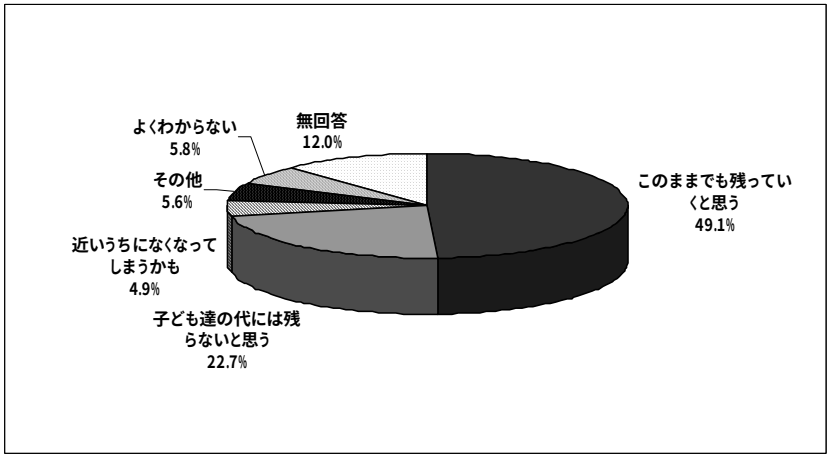

図 2.2.11　「今も残っている自然」の今後の有無